

令和4年12月17日

全国大学生生活協同組合連合会 第66回通常総会
御挨拶

文部科学省 高等教育局 学生支援課長
藤吉 尚之

「全国大学生生活協同組合連合会第66回通常総会」の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

今回も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにより開催されるとのことですが、開催に御尽力された関係者の皆様に敬意を表するとともに、本会の開催を心よりお慶び申し上げます。

全国大学生生活協同組合連合会におかれましては、前身である「全国学校協同組合連合会」の1947年の発足以来、食堂運営、店舗運営、共済事業、キャリア形成支援等の幅広い事業を展開し、我が国の学生支援の充実に資する重要な役割を果たしてこられました。また、学生が安心して大学生活を送るためのセミナーの開催や、広報誌・ホームページによる全国各地の大学生協の取組の発信など、会員組織を支援する様々な事業を実施されております。これらの取組は、会長理事をはじめとする関係者の皆様のこれまでの御尽力によるものであり、深く敬意を表する次第です。

また、「協同」、「協力」、「自立」、「参加」の4つの使命とそこから展開する8つのビジョンを掲げ、「学生中心の生協」として、学生委員会を始め、多数の学生・大学院生・留学生等が参加し、学生目線で、学生主体の活動を大切に、事業を実施してこられたことは、大変意義深いことであります。

本年度も各大学生協では、コロナ禍の中で共済事業による療養支援や相談支援、学生間のつながり作りの場の提供、学食を活用した食事支援や情報提供等、様々な取組を実施しており、大学生協が大学と学生、あるいは学生同士をつなぐコミュニティとして大きな役割を果たしておられますことに改めて感謝申し上げます。

さて、貴連合会が全国の大学生を対象に本年7月に実施された、コロナ禍の大学生生活アンケートでは、コロナ禍で苦しむ学生、特に一昨年前に入学した現3年生が、就職活動をはじめ、学生生活に不安を抱えていることや、その中でも前向きに頑張る姿が明らかとなりました。

新型コロナウイルス感染症の累次にわたる流行や、昨今の物価高の影響等により、様々な不安を抱えやすい状況にある学生へのメンタルヘルスケアは引き続き重要であり、孤独感や学生生活に不安を抱えている学生の把握とケアが求められているところです。そのような中、現役学生や教員も参画し、高校生の保護者の方々等に向け大学生生活の留意点などをお知らせする「保護者のための大学生生活入門セミナー」を開催されたことは非常に意義深く、今後も個々の学生に寄り添い、その学生生活を活発化させるような活動が展開されることを大いに期待しております。

文部科学省といたしましても、経済的に困難を抱える大学生等が進学・修学をあきらめることのないよう、授業料減免と給付型奨学金を併せた支援や貸与型奨学金の減額返還等の支援、障害のある学生支援、就職支援、インターンシップの推進等、学生生活における喫緊の課題に対応した必要な施策を引き続き推進してまいります。

どうぞ、皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、貴連合会の益々の御発展及び関係するすべての皆様方の更なる御活躍と全国の大学生の皆さんの学生生活の充実を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。